

急性胃腸炎

医療法人 小金井中央病院
内科医長 宮田 なつ実

急性胃腸炎とは、ウイルスや細菌などが原因で胃や腸に炎症が起き、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱などの症状を起こす病気です。

冬の急性胃腸炎の原因の多くはウイルスです。

しばしば集団感染の原因となるノロウイルスは生カキや汚染された飲料水、調理人の手などを介して感染します。

ロタウイルスは感染者の便や嘔吐物、汚染された食品や水を介して経口的に感染します。乳幼児の間で流行が多いとされています。



急性胃腸炎には一般的に抗生剤は不要です。理由として、ウイルス性胃腸炎には効果がなく、細菌性胃腸炎は多くの場合自然治癒するためです。また抗生剤は薬自体が下痢症状の原因となることがあるからです。



急性胃腸炎では下痢や嘔吐で脱水になりやすく、特に乳幼児や高齢者の方は注意が必要です。十分な水分と電解質（経口補水液など）をとることが大切です。水分摂取が困難な場合には点滴を行います



高熱や強い腹痛、血便を伴う場合は重度の細菌性腸炎の可能性があります。速やかに病院を受診しましょう。

ノロウイルスやロタウイルスにはアルコール消毒の効果が低く、布や器具の消毒には熱湯や次亜塩素酸ナトリウムを用います。ウイルス、細菌感染いずれの場合も石鹸を用いた十分な手洗いによる病原体の除去が感染予防に有効です。



急性胃腸炎の予防には、原因となる病原体を体に入れないことが最も重要です。日頃から調理前後・食事前・トイレの後などに、石鹸を使って、流水で手をしっかりと洗いましょう。

介護職は“人を支える専門職”です

～人の暮らしを支える“プロ”の仕事～

医療法人 小金井中央病院
介護付高齢者住宅ぬくもり
施設長 水谷 圭吾

介護の仕事は、特別な資格がなくても始めることができます。

「人の役に立ちたい」「誰かを支えたい」という気持ちがあれば、どなたでも第一歩を踏み出せる、やりがいのある仕事です。

◆無資格でも始められる

介護職は、未経験・無資格からでもスタート可能です。現場での経験を通じて、少しずつスキルを身につけていきます。



◆でも、専門性はとても高い

食事・入浴・排泄などの身体介助には安全と技術が求められます。

認知症の方との関わり方、心のケア、ご家族との連携も重要な役割です。

医療・看護・リハビリなど、多職種と連携してチームで支えるのが特徴です。



◆資格取得でスキルアップ

働きながら「介護福祉士」などの資格を取得することができます。

当施設では、介護職員の約8割が国家資格である介護福祉士を取得しており専門性の高いケアを提供しています。資格を取得することで、ケアの幅が広がり、自信ややりがいにもつながります。



◆介護職員の不足と“介護難民”の増加

日本では高齢化が進み、介護を必要とする方が年々増えています。一方で、介護職員の数は追いついておらず、将来的な人材不足が深刻化しています。このままでは、介護が必要でもサービスを受けられない“介護難民”が増える恐れがあります。

地域全体で介護職の魅力や意義を伝え、担い手を育てていくことが大切です。



◆介護職は“成長できる仕事”

経験を積むことで、より専門的なケアやチーム内での役割を広げていくことができます。

専門性と人間力の両方が磨かれる、誇りある職業です。



介護の仕事が、皆様にとって少しでも身近に感じられるきっかけになれば嬉しく思います。私たちはこれからも、地域に根ざした、安心と信頼の介護を目指して歩んでまいります。

